

こおりまち

議会だより

令和5年 冬号 VOL.131



除雪の準備はできた

出動はいつでもOKだ

令和4年度

12月定例会 ②

旧役場庁舎跡地は草ぼうぼう、
いつになったら進むのか ⑦
一般質問 (8名登壇)

議会報告・意見交換会 Q & A ⑱

12月定例会

令和4年12月6日～12月12日

提出議案

条例制定1件、条例改正9件、補正予算6件、宣言1件、発委1件の18件を可決した。

条例制定

◆町小規模企業振興条例

条例の目的

小規模企業が経済発展に果たす役割の重要性に鑑み、その振興に関する基本理念を定め、町及び小規模企業等の役割を明らかにするとともに、小規模企業の振興に関する施策を総合的に推進することにより、地域経済の持続的な発展及び町民生活の向上に寄与する。

修正動議提出

提出者 岡本貴士 鈴木隆志

修正の理由

第5条3に「小規模企業者は、商工会への加入等により地域貢献」とある。『商工会への加入等』は限定はしていないが、既に制定した自治体では限定しているため、町民に誤解を与えぬよう、本条例の本意に沿った文言へ修正する。

修正案

前 第5条3 小規模企業者は、商工会への加入等により地域貢献及び地域経済の活性化に努めるものと

する。

後 第5条3 小規模企業者は、商工会等の活動を通じて地域貢献及び地域経済の活性化に努めるものとする。

修正案 全会一致で可決

討論

賛成 8
反対 1

修正案を除いた原文に対し

反対 齋藤松夫 議員

小規模企業振興条例の中で一番大事なのは、第四条（町の役割）だ。それがたった二行では、町が果たすべき役割が不明で、あまりにも不十分といわざるを得ない。よって本案に賛成することはできず反対だ。

また条例制定に至る検討経過も不十分だ。国見町ではあらかじめ町としての条例（案）を示したうえで、町民各層からなる検討委員会を設置し、パブリックコメントも実施しているではないか。この点桑折町としても大いに学び、今後に生かしていただきたい。

賛成 岡本貴士 議員

本条例は、地域振興に必要な不可欠なものである。本条例の制定に向けて取り組まれた商工会の皆さんに敬意を表して賛成討論とする。

賛成 川名静子 議員

この条例には小規模企業者やそれぞれの関係機関が役割を明文化することで地域経済の持続的な発展及び町民生活の向上へ寄与することが目的とされている。これまでにおいても町民一体となり小規模企業を応援してきたが、制定を機に繋ぎ手となる町の役割はこれまで以上に重要になると考える。この町で起業される方が増えることで町活性化に繋がり、生きた条例になることを期待し賛成討論とする。

条例改正

◆町営住宅条例の一部改正

改正の内容

桑折駅前団地の戸数減に伴う改正
対象戸数 ↓ 6戸

◆町子育て世帯定住促進住宅条例の一部改正

改正の内容

桑折駅前団地6戸の用途廃止に伴い、子育て世帯定住促進住宅が6戸増える。
（※詳しくは58212124）

質疑

問い合わせ内容、メンテナンス・クリーニング費用等の質疑があった。

◆町職員の定年等に関する条例の一部改正

条例の一部改正

◆地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例

改正の内容

地方公務員法の一部改正に伴い、職員の定年を令和13年までに60歳から65歳に
（次ページにつづく）

引き上げられる。本町の該当者は8名だ。また、職員の給与に係る条例の改正

質疑

例規集への書き換え時期、公益法人の該当団体名等の質疑があった。

◆町職員の給与に関する条例の一部改正

改正の内容

県人事委員会勧告に準拠し、職員の給料表、期末勤勉手当支給率等を改正。
・支給額合計
567万2千円

質疑

人事委員会勧告以外の修正等の質疑があった。

◆町地方活力向上地域における固定資産税の課税免除及び不均一課税に関する条例の一部改正

改正の内容

対象期間を「2年」から「3年」に延長する

◆町民研修センター条例の一部改正

改正の内容

燃油価格等の高騰に伴い入湯料金等を改正する
・現350円→50円アップ

質疑

改正の時期、値上げ金額の根拠等の質疑があった。

◆町議会議員の議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部改正

改正の内容

◆町長等の給与及び旅費に関する条例の一部改正
議会議員、町長等の令和4年12月期期末手当支給割合を0・35月増の1・800月分に改正
改定による支給額増(総額)
特別職：約86万9千円
議員：約93万5千円

議会提出 条例改正

◆町議会議員政治倫理条例の一部改正

改正の内容

第2条中第3項を第4項とし、第2項を第3項とし、第1項の次に次の1項を加

える。

2 議員は長期にわたる欠席により、自らの役割と責務を果たせず町民の負託に答えられなくなった場合、自らの進退を潔く決しなければならない。

補正予算

◆一般会計(第8号)

歳入歳出予算の総額に、それぞれ2億4262万8千円を追加し、予算総額を73億8646万円とするもの。

《主な歳入》

○国庫支出金
・公立学校施設災害復旧費負担金 1005万円
・出産・子育て応援交付金 370万円
・防災・減災対策等強化推進事業補助金 6200万円
・社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) 506万8千円

○都道府県支出金
・県安心こども基金特別対策事業補助金

2469万2千円

・県認定こども園施設整備交付金 588万5千円

○地方債

・社会資本整備総合交付金事業債 2890万円

・防災・減災対策等強化推進事業債

▲1170万円

・地域振興施設災害復旧事業債 1100万円

《主な歳出》

・住民税均等割世帯応援商品券給付事業 ▲1863万8千円

対象世帯が確定 1500世帯→330世帯

・子育て応援商品券給付事業費 1624万4千円

(0～18歳)一人一万円分の商品券給付)

・出産・子育て応援交付金事業費 555万円

・道路維持管理費 550万円

(「町道除雪計画」に基づき消耗品、除雪機械借上げ料)

・都市計画総務費

次ページに掲載しました。

5366万3千円

(歴史文化エリア拠点 旧伊達郡役所南側土地取得費他)

・子育て支援事業費 3784万2千円

(認定こども園整備費補助金) 橋梁災害復旧費 4900万円

(昭和大橋 財源の変更)

・小学校災害復旧費 6633万7千円

(伊達崎小学校 追加増額分)

※今補正には25項目が計上されています。



討論

賛成 6
反対 3

(第8号)補正予算に対して

次ページに掲載しました。

反 対		(第 8 号)補正予算に対する討論		賛 成	
齋藤松夫議員	本補正予算案には、一つ、地震で損壊した種徳美術館対策を棚上げし、「観光立町方針」かとも受けとめられるような、観光交流センター建設のための、土地取得予算が計上された。二つ、「いままぜ民営化なのか」の説明責任を果たさず、1,400人もの町保育所等存続署名に対しても一顧だにせず、町自らが決めた「第2期子ども子育て支援事業計画」と真逆の、民営認定こども園開設予算が計上された。このような町民無視の政策には反対だ。	佐藤武朗議員	主な補正内訳は、住民生活に直結する物価対策予算、今冬の除雪予算と伊達崎小学校、昭和大橋、町民研修センターの災害復旧予算で一日でも早い復旧を望む。また、「歴史文化エリア拠点整備事業」に必要な土地取得。及び、福島蚕糸跡地の複合施設整備の関係予算で、これらの予算は、「イオンモール北福島(仮称)」の開設時期も2年後に迫り、「移住・定住」「中心市街地活性化」等に繋がる大変重要な予算であり賛成討論とする。		
川名静子議員	本補正には、町民と直結する予算や小学校災害復旧費、除雪関連経費等に反対する者ではない。だが少ない園児を2つに分け、働く場なくなるやもしれない不安を抱えた職員達のこと。また、宗教団体との関係も解明されず疑念を抱いたまま整備費補助に賛成はできない。さらに歴史文化エリア拠点施設の土地購入、総合計画に「地域資源を最大限に活かしたまちづくり」とある。その考え方こそ「SDGs推進の町宣言」に相応しい。身の丈に合ったまちづくりは町民の考え方です。	岡本貴士議員	本補正予算は、過去・現在・未来に向けてバランスのとれたものであり、高く評価できるものである。本予算がコロナ禍、物価高に苦しむ町民の元気と明るい未来につながることを期待して、賛成討論とする。		
鈴木隆志議員	町民生活にとって、大切な予算であることは十分理解しているが、次の3点から反対とする ・待機児童ゼロの町に於いて、なぜ「認定こども園」を選定し、醸芳保育所を廃止してまで移行する必要があったのかの説明が不十分である。 ・「認定こども園」移行に伴う条件が整ってから、醸芳保育所移行を判断すべきで、協議途中で判断すべきではない。 ・「認定こども園」の設置許認可申請中であり、認可決定後、予算計上すべきである。	◆一般会計(第9号) 歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ103万9千円を追加し、予算総額を73億8749万9千円とするもの 《歳入》 ・繰越金 103万9千円 ・職員人件費 103万9千円 《歳出》			

歳入歳出予算の総額

額に歳入歳出それぞれ103万9千円を追加之、予算総額を73億8749万9千円とするもの

・ 繰越金

《歲出》

103万9千円

(事業勘定)(第3号)

歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ6万7千円を減額し、予算総額を13億5677万4千円とするもの

・ 国民健康保険税

・繰入金

- ・ 総務管理費

・基金積立金 ▲6万8千円
1千円

(保険事業勘定)(第2号)

歳入歳出予算の総額からそれぞれ627万6千円を減額し、予算総額を17億2420万8千円とするもの

《主な歳出》

- ・総務費▲628万3千円
- ・介護認定審査会費

特別会計（第1号）

歳入歳出予算の総額に、それぞれ20万円を追加し予

算総額を2億9253万6千円とするもの

・ 繰越金

・ 総務費

・ 総務費	8万3千円
・ 事業費	11万7千円

収益的收入及び支出

・ 營業費用

・特別損失

・特別損失
20万2千円

・第2回地方自治研究

令和4年
12月16日
交流セミナー

・国見町
第3回地方自治研究

交流セミナー

令和5年
1月11日
川俣町

- 産業厚生常任委員会視察調査

令和5年
1月18
～
19日

山形県高畠町及び

山形県朝日町

宣言

「ヘルスアップタウンこおり」

桑折町の豊かな自然と恵みの中で、私たちの心と体は育まれています。

すべての町民が、健康で笑顔にあふれ、いつまでも幸せに桑折町で暮らし続けることは、私たち共通の願いです。

私たちは、「みんなが幸せを実感できる 元気なまち こおり」の実現を目指し、町民一人ひとりが健康の大切さを認識して、楽しく学び元気な体づくりを推進するため、ここに「ヘルスアップタウン こおり」を宣言します。



緑 越 明 許 費

款	項	事業名	金額
10災害復旧費	04文教施設災害復旧費	伊達崎小学校災害復旧事業	128,389千円
合 計			128,389千円

議 案 審 議 結 果 表

令和4年第8回桑折町議会臨時会

○賛否の分かれた議案

議案名	議員名	羽根田ひとみ	石幡政子	岡本貴士	鈴木隆志	齋藤松夫	佐藤武朗	佐藤榮三	川名静子	半澤 高	原 賢志	議長	可否
議案第46号 令和4年度桑折町一般会計補正予算(第7号)		○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	—	可決

○全会一致で可決の議案

○：賛成 ●：反対 □：討論者

議案名	討論者
議案第45号 桑折町立伊達崎小学校災害復旧工事(第2期)請負契約の一部変更について	
選挙第1号 公立藤田病院組合議会議員選挙について	
選挙第2号 伊達地方衛生処理組合議会議員選挙について	

令和4年第9回桑折町議会定例会

○賛否の分かれた議案

議案名	議員名	羽根田ひとみ	石幡政子	岡本貴士	鈴木隆志	齋藤松夫	佐藤武朗	佐藤榮三	川名静子	半澤 高	原 賢志	議長	可否
議案第47号 桑折町小規模企業振興条例		○	○	○	○	●	○	○	○	○	—	欠	可決
議案第55号 令和4年度桑折町一般会計補正予算(第8号)		○	○	○	●	●	○	○	●	○	—	欠	可決

○全会一致で可決の議案

○：賛成 ●：反対 欠：欠席 □：討論者

議案名	討論者	議案名	討論者
修正動議 議案第47号 桑折町小規模企業振興条例に対する修正案	齋藤松夫	議案第59号 令和4年度桑折町水道事業会計補正予算(第1号)	
議案第48号 桑折町町営住宅条例の一部を改正する条例		議案第60号 「ヘルスアップタウンこおり」宣言	
議案第49号 桑折町子育て世帯定住促進住宅条例の一部を改正する条例		議案第61号 桑折町議会議員の議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	
議案第50号 桑折町職員の定年等に関する条例の一部を改正する条例		議案第62号 桑折町長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例	
議案第51号 地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例		議案第63号 令和4年度桑折町一般会計補正予算(第9号)	
議案第52号 桑折町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例		発委第8号 桑折町議会議員政治倫理条例の一部を改正する条例	
議案第53号 桑折町地方活力向上地域における固定資産税の課税免除及び不均一課税に関する条例の一部を改正する条例		特別委員会調査報告について	
議案第54号 桑折町民研修センター条例の一部を改正する条例		所掌事務調査報告について	
議案第56号 令和4年度桑折町国民健康保険特別会計(事業勘定)補正予算(第3号)		議員の派遣について	
議案第57号 令和4年度桑折町介護保険特別会計(保険事業勘定)補正予算(第2号)		閉会中の所管及び所掌事務調査申し出について	
議案第58号 令和4年度桑折町公共下水道事業特別会計補正予算(第1号)			

※報告は採決なし

一般質問

8名登壇

町政を問う

詳しくはこちら



- ◇議員が事前通告した内容に基づいて、一人持ち時間60分で行われます。
- ◇内容は、質問者の責任において作成されたものを掲載しています。
- ◇質問項目は、通告によるものです。
- ◇議会ホームページ(録画)で過去一年分までご覧いただけます。

登壇議員	質問項目 ◎印の質問の概要を掲載しています
半澤 高 (7ページ)	◎今年の各選挙(特に投票率)の総括と今後の方策は。 ◎旧役場庁舎跡地は草ぼうぼう、いつになったら進むのか。 ・蚕糸跡地の認定こども園の「名称」の公募を。 ・半田銀山のさらなる情報発信と羽州街道沿いの整備を。
岡本 貴士 (8ページ)	◎町民の声「町長は、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)と関わりはないのか」をお預かりした。町長に伺う。 ・町民アンケート71.4%の方が「町長選挙は、心配な結果である」と答えた(新聞折込調査9/27)その結果に対する町長のお考えを伺う。 ◎町民の声(意見交換会)「除雪にそなえ、予算をしっかりと確保してほしい」をお預かりした。町長のお考えを伺う。 ・町民の声「今の対策では物価高による生活への影響が和らぐと期待できない」をお預かりした。町長のお考えを伺う。 ・町民の声「新型コロナ第8波の影響が心配だ」をお預かりした。町長のお考えを伺う。 ・私は、新聞折込チラシ、ホームページ、SNS、FAXなどで、ご意見を頂戴している。町の広聴活動の取り組みを伺う。
鈴木 隆志 (9ページ)	・学校給食費支援実質無償化事業について ◎新型コロナウイルス感染及びインフルエンザ感染に対する対応について ◎認定こども園の今後の対応について ・「福島蚕糸跡地」町有地活用公募型プロポーザル審査委員会 最優秀者の選定について ・これからの幼児保育・教育のあり方に関する町の方針について
佐藤 榮三 (10ページ)	◎献上桃の郷ブランド維持と生産農家支援について ◎交流人口の拡大施策について ・降雪時の吹溜りへの対応について
川名 静子 (11ページ)	◎投票率が年々下がってきている状況を、どのように分析し対策を講じようとしているのか。 ・安全に登下校できる通学路確保について 特に除雪後の歩道確保は充分か ◎「認定こども園」の定数及び「釀芳幼稚園」の職員体制について ・定員管理適正化計画について
佐藤 武朗 (12ページ)	◎「イオンモール北福島(仮称)の集客を活かした」本町の都市的土地利用について ・農業の振興策等について ・中心市街地の活性化につなげる施策について ◎町内会の「役員や民生委員・児童委員等のなり手不足」状況について
石幡 政子 (欠席)※	・町民が一丸となったSDGs推進について ・空 ※会議規則第61条第4項の規定により質問の通告をしたものが欠席のとき、通告はその効力を失う。 ・商業施設のキャッシュレス化について
羽根田 ひとみ (13ページ)	・地域防災力の強化と防災スピーカーの活用について ◎イコーゼの活用について ◎奨学金返還支援制度の導入について
齋藤 松夫 (14ページ)	◎「旧蚕糸跡地プロポーザル公募事業」及び、「認定こども園の企画提案は民営化ではなく応募事業者独自の民営事業であった」とした九月議会答弁(4番私が行った出来レースの疑いありの質問への答弁を指す)に関して ・政策転換にあたっての説明責任の遂行及び第2期こども子育て支援事業計画の中間見直しの進捗状況について ◎認定こども園開設事業者と世界平和統一家庭連合(旧統一教会)との関係について ・本町におけるパブリックコメント実施経過及び「歴史文化あり方提言書(案)」に対する意見募集について ・自治基本条例制定について ・広域農道の県道への格上げ要望(伊達郡議員大会決議)について



半澤 高議員

役場跡地は草ぼうぼう今後は 1月には購入者募集とのこと

問 旧役場庁舎跡地は宅地分譲をするということで民間の事業者が購入したが、建物撤去の後、なかなか事業が進まず草が茫々と生い茂っている。いつ頃から宅地に関する工事が始まるのかなど今後の予定について町として何らかの情報を得ているのか伺う。

答 町長 宅地分譲については、先月中旬の町および地元業者を含めた工事関係者の協議において、「現在、開発許可申請中で、今月（12月）中旬には造成工事に着手し、来年1月には購入希望者を募る意向である」と取得業者から伺っている。
問 民間業者として対応が遅いのではないか。
答 総務課長 土地売買契約書の内容に沿っている。



— やっと始まった工事 —

投票率アップの方策は

引き続き研究していく

問 今年は、参議院議員選挙、町長選挙、町議会議員補欠選挙、県知事選挙と各選挙が行われたが、それぞれの選挙における投票率、特に10代や20代といった若い世代の投票率のアップについてどのような対策を講じたのか。その結果はどうだったのか、選挙管理委員会での総括を伺う。

また、来年は町議会議員の本選挙が行われる。町民にとって身近な選挙であり全体的に関心が高くなると

答 思われるが、若い世代にもぜひ関心をもって投票してもらうため、どのような方策を練っているのか伺う。

答 選挙管理委員会委員長 投票率については、若年層の投票立会人への選任や啓発資料の配付、町ホームページによる広報など、各種啓発に取り組んだものの、全体的に低い数値であり、若年層も同様の結果となった。今後においても向上に向け有効な方策について引き続き研究していく。

これも質問

- 問** 認定こども園の「名称」公募を
- 答** 機会を捉えて設置事業者に伝える
- 問** 半田銀山のさらなるPRを
- 答** 関連資料の保存・公開方法を検討する



岡本貴士議員

町民の声「除雪予算を確保して」 550万円の補正予算を計上した



町を動かす町民の声

問 町民の声（意見交換会）「除雪にそなえ、予算をしっかりと確保してほしい」をお預かりした。町長の考えを伺う。

答 町長 除雪費については、例年以上の低温・降雪が予想される今冬へ向け、10月に策定した「桑折町町道除雪計画」に基づき、従来の町職員に加え、町内民間業者による除雪作業により体制の強化を図るため、今期定例会に補正予算を計上した。

声「町長と旧統一教会の関係は」 関わりは一切ありません

次の8点の有無を伺う。
町議員時代も含めて。

問 ①祝電やメッセージ等の送付。

答 町長 ありません。

問 ②広報紙へのインタビューなど。

答 町長 ありません。

問 ③関連団体での挨拶

答 町長 ありません。

問 ④教団主催の会合への出席。

答 町長 ありません。

問 ⑤教団や関連団体への会費類の支出。

答 町長 ありません。

問 ⑥寄付やパーティー券などによる収入。

答 町長 ありません。

問 ⑦選挙でのボランティア支援。

答 町長 ありません。

問 ⑧選挙での組織的支援や動員等の受け入れ。

答 町長 ありません。

これも質問

問 町長選挙のアンケート結果については

答 多くの町民から支持と認識している

問 コロナ第8波への対策は

答 検査キット無料配布など、取組みを推進する

問 物価高対策については

答 現金給付などを実施、今後、国県の動向注視



鈴木隆志議員

認定こども園、町民説明会開催は 事業の進捗に合わせ説明会を開催



想い出の歴史に幕を閉じるのか

「認定こども園」に関する説明会が7月以降開催されていない。11月に開催された議会報告・意見交換会においても「認定こども園」に関する質疑があったことから、次の点伺う。

問 町民へ説明会開催後も不安の声が寄せられている。認定こども園の選定、保育所を完全移行するに至った経過等、広報・ホームページ等に詳しい記載がなく、町民には十分伝わっていないと考える。今後、町民に対する説明は、どのようにする考えか。

答 町長 これまで情報の周知に努めてきたが、不十分ということであれば、さらに、広報等を通じ周知に努めていく。また、利用するであろう保護者を中心に、事業の進捗に合わせて機会を捉え、説明会を開催していく。

予防接種助成対象者の拡大は 医師会等と協議検討する

医師会等と協議検討する

この冬、新型コロナとインフルエンザの同時感染が懸念され、コロナワクチン接種と共に、インフルエンザワクチンの接種が推奨されていることから、次の点伺う。

問 子育て支援で高い評価を受けている町として、また、若年層でコロナ感染者が増加していることを考慮して、生後6か月から18歳に対する助成で、2回目接

種者への助成、3人目接種者は無償化するなど、子育て世代に配慮した助成見直しが必要と考える。今後の対応は。

答 町長 今年度については、お知らせ版で周知している制度で実施していく。子ども・妊婦については、町独自の助成となっており、今後、近隣市町・医師会等と協議のうえ、次年度に向けて検討する。

これも質問

問

町外幼稚園、通園者に対する給食費無償化は

答

「認定こども園」以外の幼稚園は対象外だ

問

「認定こども園」プロポーザル最優秀者選定は

答

提案説明・質疑応答を踏まえ評価を行った結果

問

町方針の「認定こども園」を誘致したとの表現は

答

「認定こども園」に町保育所機能を移行する意味



佐藤 栄三 議員

ブランド維持と生産農家支援を 減収生じたとしても賠償対象外



— 後継者の栽培技術が待たれる —

問 新規就農者への風評被害補償金の支払いについて、被災当時の実績がないことから支払われていない。同等の生産作業をしても価格に差異が生じている。市場単価に補償金を加算した金額が出荷単価になっている。新規就農者の生産物も同様の単価にすべきと思うが。

総合計画「農業の施策」に「農業後継者の育成強化と

新規就農者の確保、支援」が謳われており、献上桃ブランドを守るためにも、生産意欲の向上のためにも、系統販売代金に東電の補償額を補填できないか伺う。

答 町長 新規就農者への賠償については平成29年12月、東電の方針に示され、今日に至っていると捉えている。今後、町として東電との交渉の中で確認してみたい。

これも 質 問

問

降雪時の吹溜り対策は

答

町職員、業者、地元町内会等で共有し対応する

交流人口の拡大を図る施策は 効果的な進入案内板を設置する

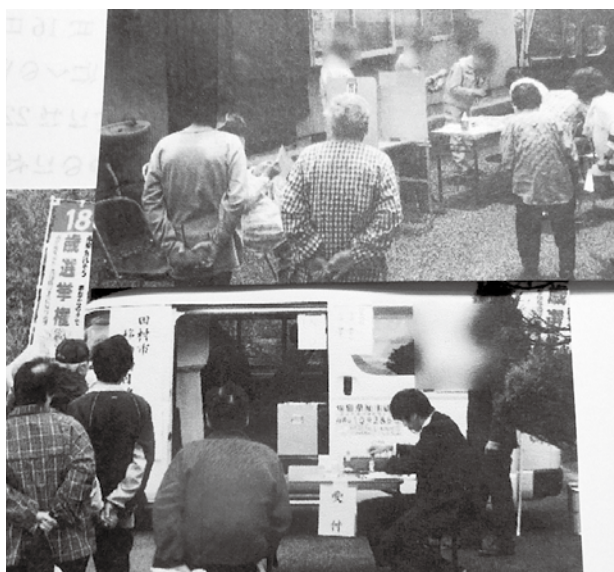
問 リニューアルオープンを控えた桑折町のシンボル、ランドマークとしての旧伊達郡役所。その進入路案内板を国道沿いのホタピー看板に郡役所の切り抜きを貼り付けるなどしてわかりやすく紹介する。町内各所の案内看板の点検、修繕して交流人口の拡大を図るべきと思うが。

答 町長 旧伊達郡役所については、町内周遊の拠点と捉えており、国道4号線からの効果的な進入案内板の設置を検討する。各観光案内板については来訪者に対する案内や、回遊促進のツールとして重要であることから、随時点検を行い必要に応じて修繕や更新を行う。



川名 静子 議員

移動投票車を走らせては 先進事例を収集、研究する



—すでに多くの県が取り組んでいる移動投票—

平成14年に約88%あった投票率が22年には73・6%、今年は60・7%と年々下がっている。選挙管理委員会として総括・分析し対策を講じようとしているのか。

問 次の選挙に向け特に投票の低い年代への投票率増対策は。

答 選挙管理委員会委員長 新有権者・若年有権者に対し向上に向けた有効な方策を研究する。

問 選挙公報をよく読み投票したいとの声がある。告示日の配布はムリか。

答 委員長 法の規定から

告示日にはできないが可能な限り早くする。

問 子供のころから政治への関心、仕組みづくりを学ぶ「子ども議会」の開催をなぜ本町はできないのか。

答 教育長 体験的に学ぶ手法ではあるが、必要な教育を先に学習させる。手間や効果を具体的に見極める必要があるので慎重に検討すべきである。

問 「投票所で待つ」から「出向いて投票してもらう」移動投票車を走らせては。

答 委員長 全国での先進事例を収集し研究する。

撤退は保育所がなくなることだ

現時点では想定していない

問 令和3年度の0歳児は45名、認定こども園の募集は24名。定数を超えた応募者は入れないのか。

答 教育長 町の方針待機児童ゼロ堅持から施設・職員等の条件を満たし受け入れる。

問 2歳児の定員は48名、3歳児定員は25名。入れる基準は何。誰が公平に選定するのか。

答 教育長 弟・妹がいる園児が優先。次に保育を必要とする事由の優先度合を考慮決定する。

問 民間なら撤退もある。対策は考えておくべきだ。なぜなら町には保育所がなくなるから。

答 町長 基本協定を基に3者間で連携・協力・支援体制を構築し運営を行っていくことから撤退は現時点では想定していない。

これも質問

- 問** 除雪により安全な通学路は確保されているか
- 答** 危険箇所を事前に把握教育委員会が支援する
- 問** 定年延長制度導入により見直し等は
- 答** 計画の職員数と大きな乖離は^{乖離}なく考えていない



佐藤 武朗 議員

1千万人以上の来店者どう活かす 拠点施設を整備、町内周遊を図る



本町のランドマーク的な役割を

問 「イオンモール北福島（仮称）」は新聞報道によると年間1千万人以上の来店が見込まれているとある。「周遊促進策を開業時まで実現させる」か、若しくは「周遊策の具体策をまとめる必要」があるのでは、所見は。

答 町長 町内の活性化と交流・関係人口の拡大にとって絶好の機会。従前にも増して、献上桃や桑折西山城、半田山自然公園等の魅力ある資源のPRと南玄

関口である旧伊達郡役所を中心に、情報発信を含めた「歴史文化エリア」を形成する拠点施設を整備し、町内の周遊を図る。

問 伊達桑折IC周辺の土地利用推進事業の進捗状況は。

答 町長 民間事業者を中心に当該区域の土地所有者による地権者会が設立する方向にあり、町としても総合計画に謳う複合型流通業務形成に向け、法令に基づく必要手続きの確認を進め

ている。

問 市街化調整区域内における「地区計画」での民間開発の実現性は。

答 町長 地域の実情に即した開発が可能になるよう「町地区計画マニュアル」の策定に向け進めている。

地域役員等の担い手不足対応は 地域の実情を把握、再編等も

問 少子高齢化が進む中、地域に欠かせない重要な役割を担っていただいている「行政連絡員や民生委員・児童委員」等のなり手不足の懸念。現状と今後の対応は。

答 町長 行政と住民のパイプ役として、重要なまちづくりの一翼を担っていただいている。将来的に担い手確保が困難な状況にあることから、地域の実情を把握し、役員の負担軽減や組織の再編等も視野に、地域住民と連携し、安定的な確保に努める。

これも質問

- 問** 農業を引継ぐ後継者（未経験）への支援策は
- 答** 町単独「農業後継者奨励金（30万円）の給付
- 問** 市街地活性化に「地域おこし協力隊」の活用は
- 答** 有効な手段、活用について検討していく



羽根田 ひとみ 議員

イコーゼの利用者を増やす方策は 民間事業者の参入も含め研究していく

問 町民の健康、体力増進のためイコーゼを有効活用すべきと考える。利用者を増やすために、2階の一面をトレーニングジムとして利用することはできないか。

答 町長 アンケート調査等でニーズを把握し、民間事業者の参入も含め、研究していく。

問 水泳大会等の開催は、利用者増に効果があると考えるが。

答 町長 学校授業では子ども達の泳力向上、各年代を対象とした水泳教室では、町民の健康維持増進にと幅広く利用されている。今後、水泳大会の開催も含め、なお一層の利用促進策を研究する。



健康と笑顔のために 笑顔でむかえています。

奨学金返還支援制度の導入を 慎重に調査・研究を進める

問 経済的な理由だけで進学を諦めている生徒がいる。また、志を持った多くの若者が奨学金制度を利用して、その返還が大きな負担となり社会問題化している。未来を担う若者を応援することは、人口減少対策のみならず、これからのリーダー輩出、更には児童生徒が希望をもって学べることに繋がるものと考ええる。奨学金の返還を肩代わりする「奨学金返還支援制度」を導入すれば、※U・I・Jター

答 教育長 この制度については多額の財源が必要になるとともに、条件設定も容易ではないことから、慎重に調査・研究を進めていく。

※Uターンとは？…地方出身者が都市部へ移住したあとで、再び出身地へ移住すること。
Iターンとは？…都市部から地方へ移住すること。また、その場合を指すこともある。
Jターンとは？…地方から都市へ移住したあと、再び地方に戻るという点でUターンに似ているが、Jターンは元々いた土地に戻るのではなく、その地方に近い、規模が少し大きな都市に移住することを指す。

これも質問

問 下校時に児童の声で防災スピーカー放送を
答 関係機関・団体と協議する



齋藤 松夫 議員

事業者独自の民営事業の説明求む 実施要領と質疑応答により選定

問 蚕糸跡地のプロポーザルにおける企画提案は、「町保育所等の民営化」ではなく、「事業者が独自に行う民営事業の提案」だった（九月議会町長答弁）とのことだ。ならば、その企画提案にあるプラン1は定員が185名、プラン2は240名だ。それだけの子どもをどこから集めて事業を成り

立たせるのか疑問だ。
この点の事業者説明の内容を、また、この点の町審査委員会の質問内容も伺う。
答 町長 事業者選定は実施要領の「提案の審査等」に基づき、事業者からの提案説明及び質疑応答を踏まえつつ評価を行ったものであると認識している。



「旧統一教会の被害者はまさに凄惨の一言に尽きる。」
— 被害者救済法成立後の記者会見での総理発言 —

旧統一教会は反社会的集団では 宗教団体なので断定はできない

問 民営認定ことも園誘致問題で、旧統一教会関連の問題が生じている。そこで伺うが、旧統一教会は「反社会的集団」であるとの社会的評価が定着していると認識するが、町長の認識はどうであるか伺う。
答 町長 この宗教団体が国会議員、地方議員との関係のあり方が社会問題になっていると認識している。「反社会的集団」と断定する

ことはできない。状況を見守りたい。
問 旧統一教会の教義は日本国憲法及び教育基本法と相容れない関係にあると考えるが、教育長の認識を伺う。
答 教育長 教育委員会としては、町の教育に関する事務以外の事柄について協議することはない。

これも 質 問

問 民営化問題でパブコメをやらない理由は

答 正当な手順でやった

問 自治基本条例制定を

答 慎重な対応が必要だ

問 広域農道の県道への格上げは

答 町道として管理に努める

委員会報告

総務文教常任委員会

委員長 齋藤 松夫

10/13 11/1・10 開催

教育文化課長から民営「認定こども園」開設に向けたスケジュールと進捗状況、総合政策課長からは桑折町における「SDGs宣言」に基づく取り組み状況についての説明をうけ、質疑を行った。

今後に向けては、今定例会での質問・質疑の結果も踏まえ、「委員間討議」を深め調査を進めていく。また、「歴史文化エリア整備構想問題」については、その他所管に関する事項のなかで、「委員会討議」を中心に対処していく。

産業厚生常任委員会

委員長 佐藤 榮三

9/2 10/25 11/10 12/1 開催

本委員会は、妊娠期から就学前にかけての子供家族を対象とする支援制度（以下、ネウボラ）の本町での成果を合計特殊出生率を指標として比較検証するため、一月に先進地視察を行う。

合計特殊出生率の定義は「15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」であり、一般に「一人の女性が一生の間に産む子供の数」と解釈される。

本町の合計特殊出生率は1・38である。本町より合計特殊出生率の高い、山形県高畠町（1・52）、山形県朝日町（1・49）を視察先として両町のネウボラの特徴的な取り組みの視察を行い本町のネウボラの取り組みと比較検討し、どうすれば本町の合計特殊出生率の改善を進める事を期待して調査を進めてくる。

広報広聴常任委員会

委員長 川名 静子

9/13・16・27・30 10/4・25・26 11/29 開催

本委員会に託された調査項目は四年間を通して、「住民参加」「情報公開の推進」をテーマに進めてきた。住民参加では議会報告・意見交換、町民会議の開催、そして「議会モニター制度」を立ち上げた。それらの意見を集約し精査、議論して「政策形成サイクル」に載せていくスタートの重要な役割を担っている。

コロナに阻まれ活動も計画通りにいかない状況が、まだ続いてはいるが、2年ぶりに議会報告・意見交換会を、4地区で行った。各会場から出た意見、アンケートへの回答は今冬号の中に掲載してある。参加された皆さまからは、「参加して良かった」「意見も十分伝えられた」との感想を頂いた。

最終年度を迎え、皆さまとの接点ができるだけ多く持ち、町民と共に歩む議会を目指していく。

委員会調査報告

議会運営委員会

委員長 半澤 高

10/6・18・20 11/10・22・28 開催

1. 調査事件
予算決算の審議のあり方について

2. 調査の目的
効率的な予算決算審議のため

3. 調査の経過
令和2年12月から令和4年11月まで

当初は、予算決算常任委員会の設置を目指し調査を進めてきたが分科会方式による審議など議員全員が予算・決算の細部の審議に加われない等の問題点に直面した。

本年7月に実施した川俣町議会・予算決算常任委員会の視察を経て、桑折町議会としては、これまでの審議方法である本会議での全議員による審議を踏襲しながら部分的に改善していくのが良いとの結論に至った。

なお、予算決算の審議充実のために今後取り組みべき事項として次の点があげられる。

①「政策形成サイクル」を取り入れている議会として、予算決算の審議をいかに政策形成に結び付けていくかが課題であり、審議途上における「自由討論」「政策討論会」の実施を有効に活用する。

②議会活動にもDX（デジタルトランスフォーメーション）を導入することにより予算決算の審議において裏付けとなる情報を可能な限りデータとして求める。

③引き続き議案書の早期配布を求める。

特別委員会調査報告

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）
対策調査特別委員会
委員長 原 賢志

1. 調査事件

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策に関する調査について

2. 調査の目的

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策に関する調査のため

3. 調査の経過

令和2年6月に本特別委員会を設置し調査を行ってきた。本年9月に中間報告を行い、今回最終報告を行った。調査報告は次のとおりである。

4. 調査の結果

全国的に1日の新規感染者数が増加傾向にあり、福島県においては「感染流行の第8波に入った」との認識が示された。本町において新規感染者数や感染経路を確認することができない状況にあり、今後も基本的な感染予防対策の強化とコロナワクチン接種の推進の

ための啓発活動を工夫しながら継続していくことが大切であると考ええる。また、医療従事者の負担軽減や病床確保、そして地域経済活動の安定化のために、同時流行が懸念されているインフルエンザの予防接種推進に向けた全町民を対象とした補助を行うことも重要であると考ええる。

また、仮に病床使用率が上昇し対策強化宣言が発令される場合、県内各地域の状況を踏まえた発令となるよう働きかけることを望むものである。併せて、地域経済に影響が生じた場合は、適切な経済支援策を講ずるよう望み最終報告とする。



令和4年度「ピザスタ」売上・利用者状況報告

(上半期 4月～9月)

項目	内容等	令和4年度 (上半期)	前年度 (上半期)	比較増減	対前年比
レストラン	来店者数 男	2,468人	2,833人	▲365人	87.1%
	来店者数 女	4,666人	5,265人	▲599人	88.6%
	計	7,134人	8,098人	▲964人	88.1%
売上高	物産品売上	435,285円	446,655円	▲11,370円	97.5%
	飲食売上	21,088,922円	19,768,001円	1,320,921円	106.7%
事業仕入高	原材料費	6,540,469円	5,999,247円	541,222円	109.0%
		31.01%	30.34%	0.67%	102.2%
人件費支出	人件費	5,767,390円	5,230,598円	536,792円	110.3%
		27.34%	26.45%	0.89%	103.4%
体験事業	ピザ作り体験	3回	1回	2回	300.0%
		33人	4人	29人	825.0%

町が出資している法人の経営状況報告

財団法人 桑折町振興公社

新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が伸び悩んでいる。

それに、追い打ちをかけるようにロシアのウクライナ侵攻に端を発した原油・穀物価格の高騰に加え、円安による輸入物価が、重くのしかかっている。

レストラン部門では、宴

会需要が急減し、食材等の度重なる値上げにより収益を圧迫する厳しい状況になっている。

六次化商品では、7月の値

上げ移行も売上数量は前年比増を確保したが、製造単価等の値上がりが続いており、厳しい状況になっている。

等努めていく。

Q 伊達崎マルシェの4・5月公社独自開催は。

A 来年も計画して継続していく。

Q 伊達崎小学校5年生が開発したピザの販売は。

A 原料費が高いこともあり、予約販売している。持つて食べるには大きいサイズなので、改良しながら、今後も継続販売していく。

土地開発公社桑折町事務所

事業執行状況報告によると令和4年度は、新規事業を実施していないことから、特に問題ない。

損益計算書

(単位: 円)

項目	令和4年度	令和3年度
1 事業収益		
(1)公有地取得事業収益	0	0
2 事業原価	0	0
事業総利益	0	0
3 販売費及び一般管理費	1,320	1,320
事業損益	1,320	1,320
事業外収益	64	42
(1)受取利息	64	42
(2)雑収益	0	0
事業外費用		
(1)支払利息	0	0
経常損失	1,256	1,278
6 特別損失	0	0
当期純損失	1,256	1,278

臨時会

第8回 10/18

令和4年度第8回臨時会については、令和4年10月28日発行の「議会だより」臨時号でお知らせしています
が、一般会計補正予算（第7号）の採決において、次のとおり報告します。

補正予算

◆一般会計（第7号）

歳入歳出予算の総額に、それぞれ1億6628万3千円を追加し、予算総額を71億4383万2千円とするもの。

＜主な歳入＞

地方創生臨時交付金

（新型コロナウイルス感染症対応）

地方創生臨時交付金

7558万3千円

＜主な歳出＞

シティプロモーション推進費

330万円

討論

賛成 9
反対 1

反対
齋藤松夫 議員

次の理由で反対する。

国からの臨時交付金を財源として物価高騰対策を行うことは重要。しかし、本町は住民税非課税世帯が1100戸、同均等割世帯が1500戸という低所得状況の中にある。旧郡役所リニューアルオープン記念事業に300万円もの予算を計上することに違和感を抱く。「リニューアルオープン記念事業」は「同セレモニー」に縮小し、暮らしを守る予算に回すべきだ。

賛成
原 賢志 議員

今回の補正は、物価高騰対策が主なものであり個人に限らず事業者に対しても広く対応したものである。財源のほとんどが交付税である。下半期の給食費全額無償化は公約の一つである。今後、子育て支援施策が継続されることを望む。

おめでとうございます



功労表彰

去る11月16日町表彰式において、町議会議員12年以上在籍者佐藤武朗議員に功績顕著として、功労賞が贈られた。

新議員紹介

・議席順

羽根田ひとみ 議員



次のことに注力し、邁進してまいります。

- ・本町の自然・歴史・文化を大切に、次世代につないでいく。
- ・各種施設の利活用を促進していく。
- ・つながりを大切にして支え合う、明るい「地域力」を高めていく。

石幡 政子 議員



より良い桑折町を次世代に継承することを基本方針とし、町民の誰もが安心して暮らせる町、そして若者が夢を持って暮らせる町づくりを町民の皆様と共に実現していくことを目標に議員活動に邁進してまいります。

モニターさんからの声

佐々木明モニター

・「議会だより」の補正

予算審議、討論内容等傍聴より解りやすかった。

・詳しい説明が欲しい。

財源増の要因、歳出増の理由、増だけではわからない。

・わが町の議員をわからない人が多い。「議会だより」に掲載してはどうか。

○詳しい説明に心掛けます。議員の掲載については可能かどうか検討します。

編集委員が
交替しました
議会と町民の架け橋に



意見交換会

議会だよりを基に、片平議長が9月定例会内容を説明し、その後意見交換が行われた。各会場で頂いた意見をQ&Aで概要を掲載しました。頂いた意見・要望等は、今後の議会活動の中で活かしていきます。ありがとうございました。



桑折 10/31

- Q** 令和3年扶助費が増えたのはなぜか。
A 非課税世帯に支援を行ったためです。
Q 財政調整費を町預金ではなく国債や県債に運用してはどうか。
A 何かあった時のために取っておく必要がある。
Q 今回の参加者が少ない。どんな周知をしたのか。
A 各戸配布と議会だよりで。
Q 町内会長等をお願いして増やす努力をお願いします。
A 春は1カ所、秋は4地区で実施、増に努めます。
Q 議会だよりP1の要望の返事はいつ（1伊達崎橋の整備、県道拡幅及び歩道整備、2藤田病院常勤

- 医師の確保等の県への支援の要望）
A 11月16日に県議3名と県に行くのでそれからです。
Q 町には22億もの預金があるのになぜ国に借金する。
A 国の補助が出る際、残りの借金は後で戻る。
Q 研修は大学の先生だけでなく民間で活躍している人で。先日、糖度25%桃の木の入札の話を聞いた。補助金ばかりあてにしないで実際に Rowe れている研修をした方がよいのでは。努力して欲しい。
A そのように思う。詳しく教えて欲しい。
Q 除雪計画を教えてください。
A 昨年国見町は綺麗だった。町には除雪機が4台しかない。ので、早めに計画し業者に依頼する予定です。また国道、県道、町道の地図を基に通学路等優先順位を考え計画していく。
Q 県知事選の投票率、本町は49・36と低い。議員が働きかけ投票率を上げてください。



睦合 11/1

- Q** 自主財源何%なら健全なのか。
A 調べて答えます。
Q 新人議員の抱負は何か。
A 今あるものを活用して新しい企画を計画していく。若い世代に継承してゆきたい。もちろん年配の方も住みやすい町にしていきたい。
Q 牛沢地区の道路が狭い。他地区より整備が遅い。
A インター周辺なのでこの地域を発展させていきたい。
Q 定例会では皆さん一般質問をして下さい。
A 指導していく。
Q 睦合小が複式学級となるようだが、他の地区では

- あるのか。皆さんはどう考えているのか。
A 地区住民の方と相談していきたい。
Q 町のコロナ感染者をHPに載せて欲しい。
A 担当課で確認します。
Q コロナワクチンを若い人は打たないのでは。
A 打ってもらおうようすすめていく。
Q 小学校の通学路に危ないところがある。
A 確認します。
Q 下成田は家が建てられない。地域改善を願いたい。
A 各区整備に当たる方向で34条11号で地区開発をやるよう働きかけていく。
Q 伊達の方が発展している。桑折もお願いしたい。
A 福島北道路延伸を国へ重ねてお願いしていく。
Q 猪は減っているのか。
A 半田は5割減った。豚熱で7割自然減。
Q (昨年はクマ19頭、猿15匹、イノシシ51頭を捕獲)
Q 敬老会祝、桑折は75歳だが福島は77歳だって。
A 100歳時代ですからね。

議会基本条例に基づく 町民の皆様との

議会報告。



半田

11/2

- Q** 議員は政策会議決定過程を全て知っているのか。
- A** 新総合計画に保育所の民営化が謳われているが、その前段の政策会議内容は明らかにされていない。
- Q** 政策会議はブラックボックスになっているのでは。
- A** 政策会議の結果はきちんと報告を受けている。
- Q** 会議の内容を公にしないと住民意見と乖離がおきるのでは。
- A** 町民意見が反映できるようにパブリックコメントの中身をチェックする。
- Q** 認定こども園の指名業者理事長は旧統一教会との関係がある。この問題を議会ではどんな議論したか。

- A** 指名業者は元総理事事件前は旧統一教会との関わりはあったようだが、事件後の関係はない。
- Q** 今回の問題に対しきちんと説明をして欲しい。
- A** 説明会は開催されている。
- Q** 決算認定はこども園の部分を切り離し採決できるか。
- A** 制度上分けてはできない。
- Q** 議員は棄権してはならない旨の議長発言は本当かい。
- A** 議員は議案に対し賛成・反対の態度を示すことが仕事だという発言はした。
- Q** 議員の棄権を認めない議長発言は問題ではないか。
- A** そんな発言はしていない。
- Q** 町には負債が48億円ある。どのように返済するのか。
- A** 事業を行うための借入金の主な返済原資は国からの交付税と認識している。
- Q** 今日の内容を議会はどの様に反映させるのか。
- A** 頂いた意見は議会の中で共有し協議していく。
- Q** 認定こども園の事業者自らの責任で地元への説明会を開催するよう議会から言っている。
- A** そのように段取りをする。



伊達崎

11/4

- Q** 旧統一教会と関係のある理事長がこども園を運営する問題だ。議会できちんと話をして欲しい。
- A** ご心配をおかけしている事は承知している。
- Q** 町民との合意形成を図ってから業者を選ぶべきだ辞められないのか。
- A** この話は保育所民営化が謳われている総合計画ができる前、令和2年12月頃から始まっている。その後プロポーザルで民営化の業者が決まった。
- Q** 総合計画に謳われていても業者の理事長が旧統一教会と関係があるなら見直すことが必要では。このまま進めば町民に対する裏切りではないのか。

- A** 理事長と旧統一教会との関係問題が起きる前から保育所民営化については多く議論されてきている。
- Q** 伊達崎橋、昭和大橋の年度中に開通する見通しは。
- A** 復旧については議員大会で県関係部署へ要望をまとめ伝えるいく。
- Q** 昭和大橋は本年度中に開通する見通しだ。
- Q** 罹災証明等各被災者支援制度の手続き窓口を一元化して。
- A** 善処できるよう努めたい。
- Q** 立候補の手続きを電子データ化して欲しい。
- A** 町の方へ伝えたい。
- Q** 新規農業者に原発事故の補償がないのはおかしい。
- A** 東電が補償してる事だが町へも提言していく。
- Q** この地域では家が建てにくい。法律的な問題なら変えれば良い。前向きに取組ん欲しい。
- A** 農地法の関係で一般の方が家を建てるのは難しい特例を受けるには地域での要請が必要だ。議会も積極的に取組んでいく。

令和4年度

議会報告・意見交換会で頂いたアンケートへの回答

●議長からの回答

頂いた意見、問	回 答
・町に対するチェックができていないのではないか。町長の言いなりでは	提出案件は、説明を求め質疑応答等を通して、各議員が判断し、チェックはされていると考えます。
・町政のチェック機関としての役割を果たしてもらいたい。	事務事業に対し政策形成過程等の説明を求めるなど、役割を果たしてまいります。

●議会運営委員会からの回答

・「決算内容に関する質問への、明快な答弁が必要」	わかりやすい説明、資料を求め、十分な議案調査を行った上で質疑・質問し、明快な答弁を引き出す努力を続けます。
--------------------------	---

●総務文教常任委員会からの回答

・桑折保育所、幼稚園の民営化はおかしい。絶対反対です。	町立保育所等存続陳情は、本会議で可否同数、議長裁決で可否。結果からすれば議員個々の説明責任の遂行と、さらなる議論の深化が必要と考えます。
-----------------------------	--

●産業厚生常任委員会からの回答

・桑折保育所の民営化に反対について	限られた財源で運営、妊娠期から就学前にかけて子育て世代を包括的な支援に向け常任委員会で調査研究する。
・イオンモール開設後の地域発達について	年間1千万人以上の来店、活性化と交流、関係人口の拡大に拠点施設を整備し町内周遊を図る。
・地域おこし協力隊の対応について	桃を中心とした栽培技術や営農の在り方を「受け入れ農家」や「関係団体」の指導等を受け活動を助成する。

●広報広聴常任委員会からの回答

・報告会への参加者を増やす策が必要ではないか	参加者を増やす必要性はある。他町等の取組みを参考に周知、内容等を工夫する。
・議会毎に懇談会、議会報告会を開催して欲しい	回数に拘らず、皆さまの意見を聴く事は大切。どんな方法が良いか考えます。
・「議会だより」を議員だけでなく職員も1人専任で置くべきではないか	各議員は任期中、1年は編集を担当するのが本町議会の特長だ。職員は専任ではないが関わっている。
・幼稚園や保育所など親が集まる場所で開催して欲しい	開催場所の工夫は重要な粗粒。今後開催の参考にする。
・固有名が議員側から出るのはどうか。議員は聞き手に徹するように	議員発言は以後注意します。意見を聴く場でもあるので、的確な回答、進行にも更に工夫していく。
・議会だよりの説明は不要。その時間を意見交換に充てて欲しい	決算の報告会も主に兼ねていた。今後、意見交換会の進行を工夫していく。
・桑折地区4名は寂しい。他3地区の状況はどの程度か	今年度は少なかった。議員、町職員を除き桑折7名、睦合8名、半田9名、伊達崎10名でした。

令和3年度

一部事務組合への町負担金

単位：千円

区 分	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
公立藤田総合病院	58,485	59,743	91,834	75,326	72,707
伊達地方消防組合	208,482	208,724	209,554	203,440	196,030
伊達地方衛生処理組合	72,113	74,295	73,789	69,095	67,620
合 計	339,080	342,762	375,177	347,861	336,357

◆ 一部事務組合とは

行政の能率化、効率化を図るため、特定の事務を関係市町村で共同処理する方式です。

公立藤田病院組合

選出議員 原 賢志

佐藤 榮三
齋藤 松夫

コロナ対策に奔走

総収益は入院患者数の増加に加え診療単価上昇、ワクチン接種の回数が増え委託収益が増収、コロナ患者受入れ補助金等増収。総費用は給与増。支払利息、雑支出は減少した。災害時の断水に備え自家水道システムを整備、第7波感染者増加で病院機能を一時的に制限したが現在は回復。現在、敷地内薬局が建設中、12月末完成予定。



伊達地方消防組合

選出議員 川名 静子

佐藤 武朗

市民・町民の安全・安心を守るため

当組合には、梁川、川俣、霊山、桑折の4地区に分署がある。各分署とも築50年を経過し修繕を繰返してきたが、西分署が令和6年度完成を目指し建設に入る。

3年ぶりとなった視察研修も各分署の現状を見て回った。

そのさ中にも救急車の出動や消防署への駆け込み等、限られた隊員で対応している。

市民・町民の安全安心を守ってくれる覚悟が伺えた。



伊達地方衛生処理組合

選出議員 半澤 高

鈴木 隆志

福島県沖地震による災害廃棄物の処理が完了

令和4年10月27日開催の定例会では、繰越明許費報告1件、各会計決算認定3件、補正予算3件の計7件の議案が上程され、すべて全会一致で可決した。

なお、本会議前の全員協議会において、本年3月に発生した福島県沖地震による災害廃棄物合計3,372トン全量を9月末で処理完了していることの報告があった。

福島地方水道用水供給企業団

選出議員 片平 秀雄

収益的収支(消費税抜き)は、水道用水供給事業収益40億8,720万9,033円に対し、水道用水供給事業費用39億6,385万5,323円で、収支差し引き額1億2,335万3,710円が当年度純利益となり、前年度繰越欠損金16億4,655万2,274円に当年度純利益を加えた15億2,319万8,564円を、未処理欠損金として翌年度に繰り越した。

資本的収支(消費税込み)は、資本的収入が833万8,000円に対し、資本的支出が17億8,943万8,459円となり、資本的収入額が資本的支出額に不足する額17億8,110万459円は、過年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額5,240万700円及び過年度分損益勘定留保資金17億2,869万9,759円で補てんした。

研修会報告

町村議会議員研修会

10/24

ビッグパレット
ふくしま

県町村議会議長会が主催する研修会が開催された。

初めに「町村議会のあり方と今後の議会改革ウィズコロナを意識して」と題して、議会事務局及び議員あ

てアンケート調査結果を基に、東北大学大学院情報科学研究所 准教授の河村和徳氏が講演した。

明治以前は名主(庄屋・肝煎)が、戦前に於いては、資産家による名誉議員が役割を担ってきたところに、戦後、持ち込まれた民主主義によるアメリカ的議員像が定着し、現在は、「議員報酬は高い」「ムダな議員を減らせ」との議員像が定着している。

議員報酬・定数削減が議会活動への関心の低下、なり手不足の傾向につながる。地方議会が多様な民意を的確に反映させるために必要



な報酬と定数を確保し、今後、ウィズコロナを意識して、地方議会活性化に向け、議会改革を進めていくことの講演をいただいた。

次に「日本政治の行方。ズバリ解説、政局の焦点」と題して政治ジャーナリストの細川隆三氏により、主に、安倍内閣の次の後継者としての前菅内閣、現岸田内閣について講演をいただき講演を終えた。

地方自治研究交流 セミナー(第1回)

11/4

桑折町
多目的スタジオイコゼ

伊達郡町村議会議長会主催の研修会全3回コースの1回目が開催された。

講師である福島大学行政政策学類教授の佐々木康文氏より、「地方自治体における行政と議会のDXについて」と題して、講義があった。

講義では、コロナ禍によって注目を集めるようになったDXは、単に紙をデジタルにするだけでなく、デジタルに移行できるものは移行し、システムに任せられるものはシステム任せられるにもDXが必要になった。しかし、行政分野では、申請や手続き等で、できるだけ足を運ばず、ワンストップで行える仕組みを構築することで、省力化を図り、デジタルで対応できない分野に人員を回すことの対応に遅れがあり、今後、

この問題を解決していく必要がある。

議会においては、データベース化、ペーパーレス、オンライン会議等での利用が考えられるが、予算・セキュリティ等と合わせ、システムを使いこなしていくための問題を解決していかなければならない。

今後、古いやり方を見直し、DXの活用を図っていくことが必要になってくる。

地方自治研究交流 セミナー(第2回)

12/16

国見町
観月台文化センター

2回目となる研修会は福島大学行政政策学類教授の岩崎由美子氏を講師に、「過疎地域指定と人口減少対策について」と題して、講義があった。

講義では、過疎地域の課題として、高齢化のいっその進行、限界集落から消滅集落、むらの農離れに対



岩崎由美子氏

して、集落の限界化と向き合う集落支援の仕組みづくり地域づくり、人材による新たな仕事づくりが、今後の地域活性化に必要である。若年女性の定着・回帰ができる地域づくり、地元若者の学びの場、居場所づくりを進めていくこと、人口は減っても人材は増える、人が人を呼ぶ、しごとがしごとをつくる。多様な人材が集まる「地域の縁側」づくりをしていくことが今後の地域づくりの焦点であると講義を終えた。その後のディスカッションでは、講師が議員席に向いての対応となり、多くの議員から活発な発言があった。

議員活動状況報告

令和4年9月定例会報告以降

活 動 状 況		対 象 者
議会定例会・臨時会		
8月30日～9月13日 令和4年第7回議会定例会	全 議 員	
10月18日 令和4年第8回議会臨時会	//	
新型コロナウイルス感染症(COVID19)対策調査特別委員会		
10月20日 11月17日 12月1日	全 議 員	
議会報告・意見交換会		
10月31日 11月1日 11月2日 11月4日	全 議 員	
議会全員協議会		
8月30日～9月13日 10月6日 10月18日 10月20日 11月1日 11月4日 11月21日 12月1日	全 議 員	
伊達地方消防組合議会		
9月26日 伊達地方消防組合議会全員協議会	選 出 議 員	
// 令和4年度第3回伊達地方消防組合議会臨時会	//	
10月27日 伊達地方消防組合議会全員協議会	//	
// 令和4年度第4回伊達地方消防組合議会定例会	//	
公立藤田病院議会		
9月29日 公立藤田病院議会全員協議会	選 出 議 員	
// 令和4年度第3回公立藤田病院議会臨時会	//	
伊達地方衛生処理組合議会		
10月27日 伊達地方衛生処理組合議会全員協議会	選 出 議 員	
// 令和4年度第3回伊達地方衛生処理組合議会定例会	//	
福島県町村議会議長会		
10月11日 福島県町村議会議長会要望活動	議 長	
10月12日 福島県町村議会議長会正副議長会議	//	
// 福島県町村議会議長会理事・監査合同会議	//	
10月24日 福島県町村議会議員研修	全 議 員	
11月8日 町村議会議長全国大会決議等に係る要望実行運動	議 長	
11月9日 第66回町村議会議長全国大会	//	
// 令和4年度町村議会議長全国大会	//	
福島県市町村総合事務組合議会		
10月11日 福島県市町村総合事務組合議会定例会	議 長	
伊達郡町村議会議長会		
11月4日 伊達郡町村議会議長会主催地方自治研究交流セミナー	全 議 員	
11月16日 第17回伊達郡町村議会議員大会決議事項等に係る要望活動	議 長	
その他行事		
9月10日 桑折町老人クラブ連合会しあわせ金婚夫婦表彰式	議 長	
9月14日 令和4年度西根神社例大祭	//	
9月17日 桑折町小学校陸上競技大会	副 議 長	
9月28日 桑折町表彰事案審査委員会	議 長	
10月1日 琴平神社例大祭	//	
10月2日 福島県(県北)地区空手道選手権大会	//	
10月3日 桑折町新議員打合せ会	//	
10月7日 桑折町小・中学生「税に関する作品コンクール」審査	//	
// 故羽根田八千代様叙勲伝達式	//	
10月8日 陸上自衛隊福島駐屯地創立69周年記念行事	//	
10月15日 桑折西山城まつり～城攻めウォークKOORI2022	//	
10月21日 桑折町小・中学生「税に関する作品コンクール」表彰式	//	
// 令和4年度桑折町高齢者作品展	//	
10月22日 桑折町文化祭開会式	//	
// 令和4年度桑折町高齢者作品展	//	
// 佐藤富博様叙勲受章祝賀会	正 副 議 長	
10月23日 桑折町文化祭芸能・ダンス発表会	議 長	
// 桑折町消防団検閲	//	
10月26日 伊達崎小学校創立150周年記念式典	//	
11月8日 ふくしま駅伝桑折町チーム選手壮行会	正 副 議 長 外	
11月16日 令和4年度桑折町表彰式	全 議 員	
11月20日 第34回市町村対抗福島縦断駅伝競走大会	//	
11月22日 百歳高齢者知事祝賀贈呈式	議 長	
// 桑折町商工会第59回優良従業員等表彰式	//	
11月24日 百歳高齢者知事祝賀贈呈式	//	
12月4日 JR桑折駅イルミネーション点灯式	//	

詳しくは、こちらから



議会広報委員では発行後、各地区数名の方々にアンケート調査にご協力を頂いております。

皆様からの率直な生の声として、「町民の声」のページに掲載しております。“わかりやすい、伝わる紙面づくり”編集に生かさせていただきます。

町民の声

「議会だより」アンケートから

（4地区3名ずつ秋号発行後）

・毎回読む 5名

・目にした時に読む 5名

・まったく読まない 1名

・今回初めて読んだ 1名

「議会だより」を読んで気づいた点・要望など

・質疑応答が型にはまっている。一般庶民にもわかりやすくしてほしい。

・施設並びに改良工事等、優先順位を付け実施願いたい。その際計画・業社名全て記載願う。

・町のブランド桃のPRが他県より少ない。宣伝等に経費を掛け、日本一を目指すことも大切ではないか。

・中央道開通により、これから町政は良くなると思う。しかし、それに対する具体的な案見がない。

また、新しい橋が余り活用されていない。耐震性がない。経費の無駄にすぎない。完全普及はいつになるのか。（60代男性）

住みたい町一番の事だが、人口が増えないのはなぜか。（70代女性）

・次の世代に興味を持ってもらいたいのでは町政に関する事のコラムや用語辞典的なコーナーなど、できるだけ分かりやすく、楽しいものを作してほしい。

（40代男性）

・広報紙全体の紙質の工夫で経費を削減してはどうか。（60代女性）

・歳入で自主財源は30%近くであり、他からの財源が70%であることにおどろいた。

（60代女性）

・異常気象による防災や農作物にあたる影響なども議題にしてほしい。生活に密着する食住の問題は重大だ。（80代女性）

・議会だよりは二色刷りだが、その色を号ごとに違える等の工夫に感心している。

・議員の写真はマスク無しのもので使用した方がよいと思う。

・議員の質問に対しての答弁、整合性がとれていない事が多く、かみあわな

いままの議論に疑問を持つ。それからの議論を期待したい。（60代女性）

編集後記

昨年末、旧伊達郡役所のリニューアルイベント当日に大きな虹が出た。「町の財産を守り、文化をつないでゆけ！」と言わんばかりに。

新年を迎え元旦祭。諏訪神社では後継者の青年による儀式の執行。その姿は凜としていた。益子神社では笛・太鼓と杖術。壁にはここを守り続けてきた人達の多数の写真。特に子ども達の様子には心温まる。益子千代節は地元の方が作ったそうだ。

この町には、先人達が悠久の時を刻んで残してくれた多くの宝物がある。これらを守り、次の世代に手渡す責務が、今を生きている私達にあることは言うまでもない。

羽根田ひとみ

■広報広聴常任委員会 編集委員

委員長 川 名 静 子 委員 半 澤 高
副委員長 鈴 木 隆 志 委員 羽根田 ひとみ

まちの歳時記 ～この町のあかり～



議会だより

令和5年1月10日発行

発行 福島県伊達郡桑折町議会
責任者 片 平 秀 雄
編集 議会広報広聴常任委員会
電話 (024) 582-2113
印刷 株式会社日進堂印刷所

<https://www.town.koori.fukushima.jp>